

私は2012年2月に北京から上海に移り住んだため、今年で上海での生活は12年を迎えることになる。北京での留学生活も合わせると、中国での生活は14年目になる。今回はこの場をお借りして私の中国との関わりについてご紹介したい。

私が初めて中国に足を踏み入れたのは1990年の夏であった。祖父に連れられて、北京、河北省の張家口、山西省の太原と、列車とバスで移動しながら観光した。天安門広場の前を、緑色の人民服を着た多くの中国の人たちが自転車に乗って行きかっていた風景が今でも目に焼き付いている。当時、田舎町で風景写真を撮ろうとしたら、映り込む中国人がみなそれを避けようとする。ツアーガイドに聞いたら、魂を取られるかと思っているとのことであったが、当時の中国では写真がそれほど普及していなかったことを物語っている。

1990年代後半、私は大学生になり、アルバイトで貯めたお金を使って、バックパッカーとして毎年の夏休みを利用して中国に旅行した。大学生には時間はあるがお金がないため、大阪港や神戸港から上海まで出ている新鑑真号という船に乗り、48時間かけて中国に向かう。片道1万5000円程度であったと記憶している。新鑑真号は出航してから2日目の朝、中国大陸から流れ出た茶色い水の長江を経て、黄浦江と呼ばれる上海中心部を二分する川をさかのぼる。到着港である上海国際フェリーターミナルは、古い洋風建築の立ち並ぶ外灘から1キロほど北側に位置しており、今では世界で有数の高層ビル群を誇る陸家嘴が真正面に見える位置にある。初めて私が上海を訪れた時は、陸家嘴は東方明珠テレビ塔しかない野原だったが、その後上海を訪れる度に高層ビルが次々と建築されていく様子を見て、中国はこれから成長するだろうと肌で感じたことを記憶している。なおその頃には、中国人は東方明珠テレビ塔を背景に得意げなポーズを取って写真を撮っていた。

上海に入ったら、定宿のドミトリーを確保した後、上海駅まで汽車の切符を買いに出かける。最終目的地はシルクロード横断やチベット高原と毎回違ったが、まず購入する

切符は途中の都市までである。外国人が購入できる窓口は上海駅におそらく1つしかなく、ごった返す人混みにもまれながら、横入りさせないように争い、ようやく自分の順番になったら、片言の中国語で行先と座席の種類を伝える。しかしなぜか毎回、まず返ってくる返事は「没有」（ないという意味）である。ここで引き下がっては、永遠に切符を買うことができない。粘って再度調べてもらったり、異なる列車や日付や座席の種類を言ったり、窓口の係員からこいつはしつこいなと思ってもらってようやく購入できる。これが今ではスマホのアプリで簡単に予約、購入できるようになったのであるから、技術の進歩は素晴らしい。しかし苦労して購入した経験も今となってはよい思い出である。

このような旅の醍醐味は名所旧跡を見て回るのではなく、色々な土地の人々の生活や文化を実際に見て聞いて嗅いで味わって五感で感じることであり、そして旅する中でいろいろな人と出会うことであった。初めて上海から西安に行くときに列車に乗り合わせた日本語教師の中国人、チベットに行くときに56時間バスと一緒に乗り続けたバックパッカーの日本人たち、そして行く先々で親切にしてくれた中国人たち、そのような人たちとの良い思い出が、私をいまなお中国に惹きつけてやまないのだろう。

これまでの12年の上海生活でも、本当に多くの人に出会い助けられてきた。今も上海で仕事もプライベートも含めてお世話になっているたくさんの方がいる。また既に日本に帰国したものの今なお連絡を取り続けている多くの友人がいる。そして日本からも私が上海で働けるようサポートしてくれるたくさんの方がいる。その人たちのおかげで今の自分があることに感謝しながら、今後も日中間のビジネスのリーガルサポートを通じて、日中の平和に貢献し、お世話になった人たちへの恩返しをしていきたいと考えている。

以上

具体的な事案に関するお問い合わせ ☒ メールアドレス : [info\\_china@ohebash.com](mailto:info_china@ohebash.com)

本ニュースレターの発行元は弁護士法人大江橋法律事務所です。弁護士法人大江橋法律事務所は、1981年に設立された日本の総合法律事務所です。東京、大阪、名古屋、海外は上海にオフィスを構えており、主に企業法務を中心とした法的サービスを提供しております。本ニュースレターの内容は、一般的な情報提供に止まるものであり、個別具体的なケースに関する法的アドバイスを想定したものではありません。本ニュースレターの内容につきましては、一切の責任を負わないものとさせていただきます。法律・裁判例に関する情報及びその対応等については本ニュースレターのみによって提供されるべきでなく、必要に応じて別途弁護士のアドバイスをお受け頂ければと存じます。